

大成ロテックの新社長に加賀田健司氏が就いた。2024年問題など難しい問題乗り越えていかなければいけない中での就任となったが、「利益を確実に高めてステークホルダーに還元、寄与していく強い思いを持っている」と強調する。大成ロテックのブランド力を向上させ、安全に品質の良いものをつくることで信頼を高める。「社員を大切にすることと社会貢献を経営の中心に据える」と力を込める加賀田社長に経営方針などを聞いた。



——就任の抱負を  
「社会貢献を通して、社会の信頼と安定した経営基盤を築いていきたい。積極的なDX（デジタルトランスフォーメーション）導入や柔軟な人材採用に取り組み、喫緊の課題である働き方改革や人財確保に対応する。事業量も確保しながら健全な経営に努め、リーディングカンパニーとし

新 社 長 Interview

社員を大切に社会貢献

て道路業界の先頭に立てる企業を目指したい」

「大成建設グループの中長期経営計画の第2フェーズと

なる、26年に向けた新中期経営計画が始まった。グループ全体のシナジーを取り入れて、役員員で具体的な方針を策定しながら目標達成に向けて進んでいきたい」

——市場動向は  
「官庁舗装工事の発注量は減少しているが、付加価値を高めて安定した受注につなげたい。合材の出荷数量も減少傾向にある。特に製品分野は

石油など原材料の値動きで厳しい状態が続くが、収益を上げるための強固な体制を構築していきたい」

——今後の方針は

「安定した収益を確保するために中央や地方官庁工事を増やし、民間工事も安定した受注を目指す。また、新たな事業分野として、大成建設グループの創業者・大倉喜八郎の生誕地である新潟県新発田市で、中小水力発電事業が進

行中だ」

——技術開発の方向性は

「カーボンニュートラル（CN）、省力化、生産性向上に対応するため、仕事のやり方や発想を転換するDXを技術開発の柱とする。特に舗装分野では、維持や補修、更新などのニーズが高まっていることから、耐久性向上をはじめ今後必要となる技術開発に力を入れる」

「CNや舗装材料の研究開発のため、大成建設と連携して『大成建設グループ次世代技術研究所』（埼玉県幸手市）の建設を進めている。同じく

現在建設中の次世代舗装試験所（福島県田村市）のテストコースでは、次世代技術研究所で開発した材料を検証するほか、民間企業にも施設を使ってもらいながら運営していく予定だ。このように地域連携を通して社会貢献につなげ

ついで」

——経営上の課題は

「喫緊の課題は人財の確保だ。労働環境を良くしながら人財を増やしたい。社会の役に立ち、ものづくりの達成感や仕事のやりがいを感じられるようなキャリアパスを示していく必要がある」  
「ダイバーシティ・エクイティ&インクルージョンを推進し、社員を大切に。さ

まざまな人が全ての年代にわたって働きがいを持って活躍できる場を整える。また、チームとして一人ひとりが自由に動ける組織とし、最高の成果につなげることを心掛ける」

\* \*

1982年3月京大大学院交通土木工学専攻修了後、同年4月大成建設入社。91年1月米国コーネル大学院修了。2016年4月常務執行役員関西支店副支店長（土木）、18年8月同関西支店長を経て、24年4月から現職。趣味はスポーツや歴史的建造物・庭園巡り。京都府出身。57年7月6日生まれ、66歳。

記者の目

和やかな雰囲気を受け答える姿は、まさにモットーとする「自然体」そのもの。信条は「心ここに在らざれば、視れども見えず、聴けども聞かえず、食らえどもその味を知らず」とし、「ッ心」を大切にしたい」と話す。社員を第一に考え、働きやすい環境を整えながらも持続的な企業の成長をけん引するかじ取り役として辣腕（らつわん）を振るう。